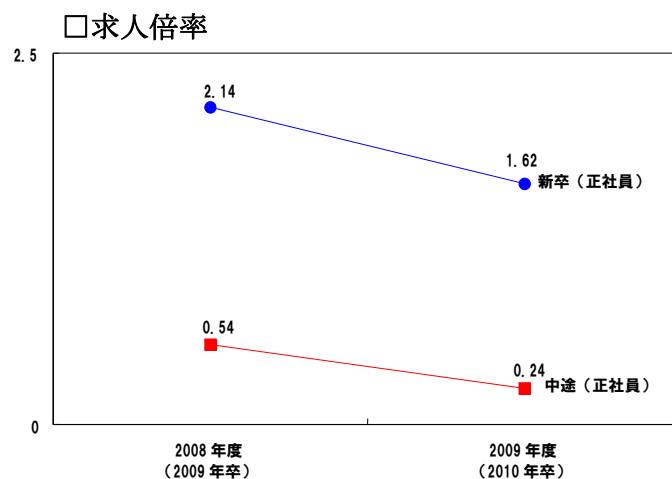


①大卒新卒採用は景気後退の影響を受けているものの、比較的堅調（氷河期と呼ぶべき水準ではない）



Year	Number of People (万人)
1987年 3月卒	60
1988年 3月卒	65
1989年 3月卒	70
1990年 3月卒	78
1991年 3月卒	84
1992年 3月卒	73
1993年 3月卒	62
1994年 3月卒	50
1995年 3月卒	40
1996年 3月卒	39
1997年 3月卒	54
1998年 3月卒	67
1999年 3月卒	50
2000年 3月卒	41
2001年 3月卒	46
2002年 3月卒	57
2003年 3月卒	56
2004年 3月卒	58
2005年 3月卒	59
2006年 3月卒	69
2007年 3月卒	82
2008年 3月卒	93
2009年 3月卒	95
2010年 3月卒	72

②高卒新卒者市場については、大学進学率の上昇、非正規雇用の拡大によって、危機的状況にある。  
中長期的に需要不足が続く可能性が高い。  
特に初職非正規比率の上昇が顕著であり、要注意。

## 2. 90年代採用抑制期新卒者の現在

①採用抑制の影響により、やむなく初職非正規を選択した人の中に、未だ非正規雇用のままという人がかなり残っている

↓

「非正規雇用卒業層」と「非正規雇用未卒業層」の二分化顕著

□初職非正規者の移行状況

出所:リクルートワークス研究所  
ワーキングパーソン調査2006

		男性		女性	
		うち		うち	
		初職 非正社員率 (%)	現在も 非正社員率 (%)	初職 非正社員率 (%)	現在も 非正社員率 (%)
高等学校卒	バブル入社以前(1986年以前入社)	9.8	20.0	5.7	60.7
	バブル入社(1987～1992年入社)	20.6	24.0	24.5	59.4
	氷河期入社(1993～1997年入社)	33.5	31.7	31.5	72.1
	1998年以降入社(1998年以降入社)	52.5	73.5	65.9	84.0
大学卒	バブル入社以前(1986年以前入社)	4.5	10.6	8.8	88.9
	バブル入社(1987～1992年入社)	6.1	23.1	11.9	80.0
	氷河期入社(1993～1997年入社)	11.2	27.2	17.9	70.0
	1998年以降入社(1998年以降入社)	24.9	71.5	22.2	68.1

②高等学校卒の現在 25～34 歳男性で初職も現在も非正規社員であるひとは、対人能力が低い<sup>i</sup>。

## 3. 若年雇用改善のための論点

①高校卒業段階までの、基礎力の育成見直し・強化

—小学校・中学校での対人能力形成が分かれ目では？

(友人関係、恋愛関係、上下関係など)

—高校段階における「労働法・雇用関係知識」の教育は重要

(将来の雇用不安にも密接に関連)

—高校までの義務教育化を議論するべきか

(高校までの連携を重視、中卒・高校中退者の労働市場での位置づけ分析を)

②大卒採用・就職プロセスの検討

—前提として、日本における新卒一括採用という雇用慣行の積極的評価が必要

その上で、学事日程とのコンフリクト部分を見直す

(たとえば、3年から4年の春休み、4年の夏休みに採用活動を集中させられないか)

\*法律によって企業の採用活動を制限することはなじまない・望ましくない

—就活シーズン終了後の4年生冬の段階での就職支援は必要

(大学のキャリアセンターで特に力を入れて取り組むべき課題・体制の充実と助成を)

③高校卒業後の進路の多様化と職業教育の充実

—高校卒業後一定期間の就業を経験をした後に、大学で学び直すことを支援する

(たとえば、奨学金の返済額の減額や、私学授業料を減免するための助成など)

—高校卒業段階よりもより高度な職業教育を提供する体制の整備  
特に、中長期の産業政策と呼応した職業人養成が重要  
(大学、短大、高専、専門学校に分散している職業教育の機能を横断的に再編、統合することが  
できないか?→きわめて大きな中長期的課題)

i

初職も現在も非正規社員である規定要因(男性 高等学校卒 現在25～34歳)

	効果	Exp(効果)
定数	-0.596	0.551
対人基礎力	-0.820 ***	0.441
対自己基礎力	0.123	1.131
対課題基礎力	0.301	1.352
N数	375	
カイ2乗	11.247 **	

注:1)初職も現在も非正規である=1、それ以外=0を被説明変数とする

注:2)\*\*\*は10%水準、\*\*は5%水準で有意であることを示す

以上は、ロジスティック回帰分析の結果である。

\*がついている変数は、「初職も現在も非正規社員である」ことに統計的に影響があり、  
効果の数字の符号は、影響の方向を示している。